

米国 日本等のブルーベリー関税には楽観的

[FreshFruitPortal](#) 2025年4月21日

貿易政策の不確実性が増す中、北米ブルーベリー評議会(NABC)と米国ハイブッシュブルーベリー協議会(USHBC)の責任者は、安定性と年間を通じた提供が業界の長期的な成長の鍵であると述べている。

NABC、USHBC両団体の会長であるケイシー・クロンキスト氏は本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し、「NABCは、ブルーベリー生産者、果実仲介業者、加工業者、食品製造業者、その他の関係者を一つに固く結びつけ、情報を提供し、擁護する役割を果たしている。我々の使命は、ハイブッシュブルーベリー業界の利益に貢献するため団結した声となり、擁護者となり、リソースとなることである」と述べた。(以下「」は同氏の話)

同氏は、NABCは1965年以来米国とカナダにおけるブルーベリー業界の声であり、米国農務省(USDA)の監督の下で独立して運営される連邦農業研究・振興プログラム(及びその実施機関)であるUSHBCの設立に重要な役割を果たしたと付け加えた。

米国とカナダは長年にわたり、両国におけるブルーベリーの安定供給のために協力してきた。現在、ドナルド・トランプ大統領が、本人が言うとおり友人にも敵にも同様に、米国との関係に対する関税の設定に取り組んでいることは、長年のパートナーの間の共生関係に悪影響を与える可能性がある。

「米国はブルーベリーの純輸入国であり、季節が逆転する国からの輸入が年間を通じた消費者の需要を牽引している。一貫して小売の場に生鮮ブルーベリーを置くことは、ブルーベリーを家庭の定番にするために重要であり、米国の生産者の成功を支えている。」

米国はブルーベリーの主要な輸入国であり輸出国である。USDAによると、2024年の生鮮ブルーベリーの輸出量は前年比36%増の1億400万ポンド(約4万7千トン)で、初めて1億ポンドを超え、史上最高を記録した。カナダは米国からの輸出の最大の市場であり、近年では輸出量の94%を占めている

クロンキスト氏は、米国とカナダとの関係を通じて、まるで国境がないかのように物事が機能してきたと述べた。「米国産のベリーは、加工や低温貯蔵のためにカナダに輸送され、その後米国に送り返されて包装され、米国市場で販売される。」

関税が引き上げられた場合の損失を予測している人が多いが、まだ大きな変化が起こっていないため、クロンキスト氏は現在の状況について依然として楽観的である。「現在、ブルーベリーを含めUSMCA(米国・メキシコ・カナダ協定)準拠の製品の関税は0%である。これまでのところ、我々の輸出先の国はどれも相互関税に報復していない。実際、最大の貿易相手国の一部はトランプ政権との交渉のテーブルに着いている。」

今シーズンは相互関税の影響を受けないとも予想されている。「チリとペルーから輸入されるブルーベリーには、10%の相互関税が課されることとなっている。しかし、輸入シーズンは数カ月先であり、それまでに多くのことが変わる可能性がある。」

両団体は、現在米国産ブルーベリーに関税を課している日本、インド、ベトナム等の国々との交渉における関税の議論について楽観的である。「日本の場合、冷凍ブルーベリーが日米貿易協定から抜け落ちて以来、その関税(無糖6%、加糖9.6%)の撤廃を提唱してきた。ベトナムとインドは、米国のブルーベリー輸出の新興市場であるが、高い関税が輸出の伸びを制約している。ベトナムの関税は、生鮮が15%、冷凍と乾燥が30%である。インドはすべての形態で10%である。」

一方で、季節が逆転した国からの輸入が年間を通じた消費者の需要を牽引し、ブルーベリーを米国の家庭の必需品にするための主要な方策であるという信念は依然として最優先事項であるものの、両団体は引き続き「米国のブルーベリー業界の輸出市場での優先事項を主張し、米国の生産者が競争力を持つための公平な競争環境を求める」考えである。

「また、予定されているUSMCAの再評価にも取り組み、業界を支援し、米国の消費者が年間を通じてブルーベリーにアクセスできるようにするための公正で自由な貿易を提唱するつもりである。」